



がん医療相談だより

No.52 平成28年8月号



今月のお話

広島大学病院 がん治療センター センター長
がん化学療法科 教授 杉山一彦



「走ったり、泳いだり、世界の人々が技を競い合う、オリンピック早く来い」。これは2020 東京オリンピックのキャッチコピーではありません。私の幼稚園の学芸会での台詞です。もちろんこの「オリンピック」は1964年東京オリンピックを示しています。当時、オリンピックがどんなものか、全く理解していませんでしたが、高い鉄棒で人間がぐるぐる回転する姿は、実家の岡山でよく見ていた木下サーカスを連想させるものでした。

現在リオ オリンピック真っ盛りです。連日の熱戦がリアルタイムで放送されており、時差12時間のため、計算は楽ですが、さすがに夜更逆転しては寝不足になります。東京オリンピックは当然時差を意識することはありませんでしたが、次のメキシコオリンピックでは競技が朝食時から放映され、授業中に主な結果が出てしまう事に不満を感じましたが、時差を意識するきっかけとなりました。背面跳びフォズベリー、人類不滅といわれた世界記録8m90cmビーモンの競技風景は今でも印象に残っております。

東京やメキシコとリオを比較すると何といっても映像技術の進歩を実感せざるを得ません。東京 白黒、メキシコ カラー、リオ 4Kです。私は当然のことながら、東京、メキシコの後、高校、大学と進んで医師になりましたが、大学時代にCTが、卒業後数年してMRが臨床応用されました。現在、CT、MR抜きに医療は語れません。東京やメキシコオリンピックの時の50年前のがん医療はどのようなものだったのでしょうか。恥ずかしながら私は全くお話しすることができません。次の2020東京オリンピック時のがん医療はどうなっているのでしょうか。これも正確に把握することはできません。しかし、今日のがん医療はどんな状況か、これを皆様に正確にお伝えすることはできます。広島大学病院のがん医療相談部門にご連絡下さい。5大がんはもちろんのこと、小児がん、原発不明がん、希少がんに至るまで、親身になってご相談にあたります。

卓球女子銅メダルの報を聞きながら、少々興奮気味に文章を書きました。文脈が整ってないのは寝不足のせいかもしれません。お許し下さい。



がんに関する相談

- ★自分の病気や治療について「知りたい」とき
- ★検査や治療について「理解して納得したい」とき
- ★医療者への質問や希望など自分の考えを「伝えたい」とき
- ★不安や心の悩みを「誰かに聞いてほしい」とき
- ★治療中の仕事や家事などの生活や、医療費など経済的なことで「心配がある」とき
- ★「家族のことも相談してみたい」とき

★厳しい暑さが続きます。体調に気を付けてお過ごしください。



患者サロンのご案内

前回のサロン（7月21日）の内容

がん治療中の心のケアについて、緩和ケアチームの医師小早川誠先生のお話でした。緩和ケアやサイコオンコロジー（がんと心の関係性）や心が辛い時の対処やコミュニケーションについて分かりやすく教えていただきました。

困ったときは、一人で悩まず、医師や看護師、薬剤師などに相談し、治療が継続できるようアドバイスを受けましょう。（参加者の感想を右にご紹介します。）

こういった緩和ケアの場があることが嬉しく思いました。話すだけでも楽になれることがある、その通りだと思いました。

前向きな気持ちになれるように考えたいと思います。

詳しい資料でとても分かりやすかったです



次回のサロン

平成27年9月15日（木）13：30～14：30
臨床管理棟 3階「3F2会議室」

「-がん治療を支える-リンパ浮腫の予防とケア」
がん看護専門看護師 山口真由美



患者おしゃべり会のご案内

開催日 平成28年8月23日（火）13：30～14：30
（★9月は27日（火）の予定です）

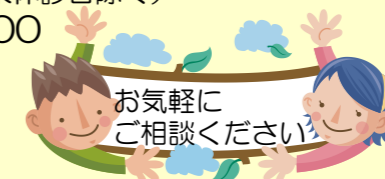
対象者 がんと診断された方とご家族
場所 診療棟2階 健康情報プラザ（右は入口の写真）
料金 無料（お気軽にご参加ください）



がん医療相談（がん相談支援センター）

（診療棟1階 がん治療センター・患者支援センター内）

連絡先 082-257-1525
相談日 月～金曜日（外来休日除く）
時間 9：00～17：00
相談方法 電話相談
来室による相談
料金 無料



がん医療相談（がん相談支援センター）案内図

